

第5章 火災による死傷者の状況

1 火災による死者

- 火災件数は増加しましたが、火災による死者は86人で、前年と比べて同数。

(1) 発生状況

ここでとりあげる「火災による死者」とは、火災に起因して死亡した者をいい、「自損行為」とは、放火による自損行為のことをいいます。

火災による死者の年別発生状況をみたものが表5-1-1、年齢区分別と火災種別、男女別の死者発生状況をみたものが表5-1-2、月別火災件数と自損行為を除いた死者の発生状況をみたものが表5-1-3です。

表 5-1-1 年別発生状況（最近10年間）

年別	全火災件数	死者の発生した火災件数	死者発生率(%)	死者数合計	の自損行為以外死者数	年齢区分別					
						5歳以下	6 19歳	20 64歳	65 74歳	75歳以上	不明
24年	5,088	103	2.0	115(21)	94	3(-)	2(1)	44(15)	23(4)	42(1)	1(-)
25年	5,190	80	1.5	87(10)	77	-(-)	1(-)	30(7)	16(2)	40(1)	-(-)
26年	4,804	87	1.8	94(16)	78	-(-)	-(-)	21(7)	25(8)	47(-)	1(1)
27年	4,430	87	2.0	95(16)	79	2(-)	-(-)	34(10)	24(3)	35(3)	-(-)
28年	3,980	77	1.9	83(15)	68	1(-)	-(-)	28(9)	28(6)	24(-)	2(-)
29年	4,204	76	1.8	79(14)	65	-(-)	1(-)	27(8)	20(5)	30(-)	1(1)
30年	3,972	79	2.0	86(12)	74	-(-)	-(-)	24(3)	30(6)	32(3)	-(-)
元年	4,085	95	2.3	108(17)	91	1(-)	-(-)	42(8)	29(3)	36(6)	-(-)
2年	3,693	80	2.2	86(10)	76	-(-)	-(-)	27(8)	17(1)	42(1)	-(-)
3年	3,935	78	2.0	86(14)	72	-(-)	-(-)	26(10)	17(1)	43(3)	-(-)

注1 火災件数は、治外法権火災及び管外からの延焼火災を除いています。

2 () は「自損行為による死者」数を内数で示したものです。

3 死者発生率とは、死者の発生した火災件数が全火災件数に占める割合です。

- 死者発生状況をみると、死者の発生した火災は78件（前年比2件減少）、死者数は86人（前年と同数）発生。
- 死者発生率をみると、全火災件数の2.0%発生。

表 5-1-2 年齢区分と火災種別、男女別死者発生状況

死者の年齢区分		火災種別							男女別		
		合計	建物火災					車両	その他	男	女
			小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや				
火災件数		78	71	19	13	37	2	1	6	性	性
死者数	合計	86	79	23	15	39	2	1	6	44	42
	自損行為以外	72	71	22	15	32	2	-	1	37	35
	5歳以下	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	6-19歳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	20-64歳	16	16	5	2	8	1	-	-	10	6
	65-74歳	16	15	3	5	6	1	-	1	11	5
	75歳以上	40	40	14	8	18	-	-	-	16	24
自損行為による死者	14	8	1	-	7	-	1	5	7	7	

表 5-1-3 月別火災件数と死者発生状況

項目	月													
	合計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
火災件数	3,935	449	378	384	375	283	282	280	257	230	277	331	409	
死者数	合計	72	13	5	8	7	2	5	4	3	2	1	8	14
	高齢者以外	16	3	-	4	3	-	2	-	-	-	-	1	3
	高齢者	56	10	5	4	4	2	3	4	3	2	1	7	11
高齢者の占める割合 (%)	77.8	76.9	100.0	50.0	57.1	100.0	60.0	100.0	100.0	100.0	100.0	87.5	78.6	

注1 火災件数は、治外法権火災及び管外からの延焼火災を除いています。
 2 死者数は、自損行為による死者を除いています。
 3 1月から3月及び12月を合わせた期間を「火災多発期」といいます。

- 男女別に死者発生状況をみると、男性が44人（51.2%）、女性が42人（48.8%）となっている。
- 年齢区分別に死者発生状況をみると、自損行為を除く高齢者の死者は56人（77.8%）で、自損行為を除く死者数の7割以上を占める。
- 火災種別ごとの自損行為を除く死者発生状況をみると、71人が建物火災で発生。建物火災による死者のうち、部分焼以上に延焼拡大した火災による死者は69人（97.2%）発生。
- 月別火災件数と死者発生状況をみると、火災多発期の火災件数は1,620件（41.2%）で、死者数は40人（55.6%）となっており、自損行為を除く死者数の半数を占める。

(2) 出火原因別発生状況

発火源別の経過・火災種別ごとに死者発生状況をみたものが表 5-1-4、年齢区分と発火源別に死者発生状況をみたものが表 5-1-5 です。

表 5-1-4 発火源別の経過・火災種別死者発生状況

発火源	合計	経過							火災種別					その他
		火源が落下する	可燃物が接触する	不適当な処に捨てる	電線が短絡する	放火	接炎する	その他・不明	建物					
									合計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	
合計	72	10	10	5	4	3	2	38	71	22	15	32	2	1
たばこ	15	9	-	5	-	-	-	1	15	5	2	7	1	-
電設機器	18	-	5	-	4	-	-	9	18	2	5	11	-	-
電気ストーブ	6	-	3	-	-	-	-	3	6	1	-	5	-	-
コード	4	-	-	-	1	-	-	3	4	1	2	1	-	-
電気冷蔵庫	3	-	-	-	3	-	-	-	3	-	2	1	-	-
テーブルタップ	2	-	-	-	-	-	-	2	2	-	-	2	-	-
電気こんろ	1	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-
白熱灯スタンド	1	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-
マルチタップ	1	-	-	-	-	-	-	1	1	-	1	-	-	-
備ガ小計	5	-	3	-	-	-	1	1	5	1	1	3	-	-
ガステーブル	4	-	2	-	-	-	1	1	4	-	1	3	-	-
簡易型ガスこんろ	1	-	1	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
備石小計	4	-	-	-	-	-	1	3	4	2	1	1	-	-
石油ストーブ	3	-	-	-	-	-	1	2	3	2	-	1	-	-
石油ファンヒータ	1	-	-	-	-	-	-	1	1	-	1	-	-	-
アセチレンガス切断器	1	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	1	-
線香(仏具用)	1	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-
蚊取線香	1	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-
灯明	1	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-
ライター	1	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	1	-	-
不明	25	-	-	-	-	2	-	23	25	12	6	6	-	1

注 自損行為による死者を除いています。

表 5-1-5 年齢区分と発火源別死者発生状況

発火源	合計	年齢区分				
		5歳以下	6-19歳	20-64歳	65-74歳	75歳以上
合計	72	-	-	16	16	40
たばこ	15	-	-	6	4	5
電気設備機器	18	-	-	1	5	12
電気ストーブ	6	-	-	-	1	5
コード	4	-	-	1	2	1
電気冷蔵庫	3	-	-	-	2	1
テーブルタップ	2	-	-	-	-	2
電気こんろ	1	-	-	-	-	1
白熱灯スタンド	1	-	-	-	-	1
マルチタップ	1	-	-	-	-	1
ガス設備機器	5	-	-	-	2	3
ガステーブル	4	-	-	-	1	3
簡易型ガスこんろ	1	-	-	-	1	-
石油設備機器	4	-	-	1	-	3
石油ストーブ	3	-	-	1	-	2
石油ファンヒーター	1	-	-	-	-	1
アセチレンガス切断器	1	-	-	1	-	-
線香(仏具用)	1	-	-	-	-	1
蚊取線香	1	-	-	-	-	1
灯明	1	-	-	-	1	-
ライター	1	-	-	1	-	-
不明	25	-	-	6	4	15

注 自損行為による死者を除いています。

- 死者発生状況を発火源別で見ると、たばこによる火災の死者が15人(20.8%、前年比2人増加)、次いで電気設備機器が18人(25.0%、同4人増加)、ガス設備機器が5人(6.9%、同1人減少)の順で発生。
- 発火源別の経過をみると、たばこによる火災は「火源が落下する」が9人(60.0%)で6割以上を占める。
- 発火源別の死者を年齢区分別で見ると、たばこによる火災の死者は高齢者が9人(60.0%)で最も多く、電気設備機器による火災の死者は電気ストーブの高齢者が6人(33.3%)で最も多い。

2 火災による負傷者

○ 火災による負傷者は、664人で前年と比べて46人減少しました。

(1) 発生状況

ここでとりあげる「火災による負傷者」とは、火災に起因して負傷した人をいいます。

ア 発生状況

火災による負傷者の年別発生状況をみたものが表5-2-1です。

表 5-2-1 年別発生状況（最近10年間）

年 別	全 火 災 件 数	し 負 傷 者 の 発 生 件 数	負 傷 者 発 生 率 (%)	負 傷 者 合 計	負 傷 者 区 分			
					一 般 人			消 防 活 動 従 事 者
					小 計	自 損 行 為 以 外	自 損 行 為	
24年	5,088	646	12.7	832(7)	814(7)	802(7)	12(-)	18
25年	5,190	608	11.7	781(3)	763(3)	744(3)	19(-)	18
26年	4,804	579	12.1	790(8)	777(8)	761(7)	16(1)	13
27年	4,430	602	13.6	827(4)	815(4)	804(4)	11(-)	12
28年	3,980	604	15.2	853(8)	842(8)	831(7)	11(1)	11
29年	4,204	569	13.5	758(9)	750(9)	734(7)	16(2)	8
30年	3,972	530	13.3	798(19)	787(19)	775(18)	12(1)	11
元年	4,085	540	13.2	705(9)	700(9)	687(7)	13(2)	5
2年	3,693	561	15.2	710(3)	705(3)	690(3)	15(-)	5
3年	3,935	528	13.4	664(4)	658(4)	647(4)	11(-)	6

注1 火災件数は、治外法権火災及び管外からの延焼火災を除いています。

2 消防活動従事者とは、消防職員、消防団員などの消防活動等に従事した者の区分です。

3 ()内は、30日死者（火災による負傷者のうちで、48時間を超え30日以内に死亡した人）を内数で示したものです（「30日死者」の項を参照）。

4 負傷者発生率とは、負傷者の発生した火災件数が全火災件数に占める割合です。

○ 負傷者が発生した火災は528件（前年比33件減少）で、664人（同46人減少）が負傷。このうち一般人の負傷者は658人（同47人減少）発生。

イ 火災種別・年齢区分と受傷程度

火災種別と年齢区分別に受傷程度をみたものが表 5-2-2、3人以上の負傷者が発生した火災状況をみたものが表 5-2-3 です。

表 5-2-2 火災種別・年齢区分別受傷状況

受傷程度	負傷者合計	火災種別										年齢区分				
		建物					車両	船舶	林野	その他	5歳以下	6歳 19歳	20歳 64歳	65歳 74歳	75歳以上	
		小計	全焼	半焼	部分焼	ぼや										
合計	647	591	34	60	176	321	26	1	2	27	12	18	408	82	127	
重篤	20	20	2	2	11	5	-	-	-	-	-	-	7	6	7	
重症	71	63	4	14	24	21	3	1	-	4	-	1	34	17	19	
中等症	158	149	17	17	51	64	4	-	1	4	2	2	87	24	43	
軽症	398	358	11	27	90	231	19	-	1	19	10	15	280	35	58	

注 消防活動従事者（6人）及び自損行為による負傷者（11人）を除いた人数です。

表 5-2-3 3人以上の負傷者が発生した火災状況（最近10年間）

年別	火災発生件数	負傷者数	3人以上負傷者数	（3人以上）負傷者合計
24年	646	40	139	
25年	608	30	104	
26年	579	43	178	
27年	602	48	193	
28年	604	46	205	
29年	569	34	137	
30年	530	46	237	
元年	540	31	113	
2年	561	32	113	
3年	528	27	92	

- 火災種別ごとに負傷者の発生数をみると、建物火災の部分焼以上の火災で負傷者が270人（45.7%）発生し、建物火災の5割近くを占める。
- 受傷程度別でみると、軽症が398人（61.5%）で最も多く、負傷者のおよそ6割を占める。
- 火災による負傷者を年齢区分でみると、高齢者は209人（32.3%）で、そのうち後期高齢者が127人（60.8%）発生している。
- 3人以上の負傷者が発生した火災をみると、27件（前年比5件減少）で、負傷者が発生した火災のうち、5.1%の割合で発生している。

(2) 出火原因別発生状況

ア 出火原因別受傷時の状態

出火原因別及び負傷者の男女別で受傷時の状態をみたものが表 5-2-4 です。

表 5-2-4 出火原因別受傷時の状態

受傷時の状態	合計	主な出火原因											男女別	
		ガステーブル等	たばこ	電気ストーブ	大型ガスこんろ	ロウソク	ライター	放火(疑い含む)	コード	差込みプラグ	石油ストーブ	その他・不明	男性	女性
合計	647	110	94	33	31	27	18	15	14	12	7	286	396	251
初期消火中	203	28	31	4	16	11	3	7	6	5	2	90	147	56
作業中	74	9	3	-	5	-	8	-	2	1	-	46	58	16
家事従事中	73	44	2	2	-	2	-	-	1	-	2	20	18	55
避難中	64	4	13	10	1	2	-	1	-	3	1	29	35	29
就寝中	60	6	16	4	-	2	-	3	1	1	-	27	35	25
休憩・休憩中	46	5	9	5	-	5	6	-	2	-	-	14	27	19
飲食中	13	1	1	-	9	-	-	-	-	-	1	1	9	4
救助中	5	-	2	1	-	-	-	-	1	-	-	1	4	1
火遊び中	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	1
採暖中	2	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
その他・不明	105	12	17	6	-	5	1	4	1	2	1	56	61	44

注 消防活動従事者（6人）及び自損行為による負傷者（11人）を除いた人数です。

- 出火原因別の上位3位をみると、ガステーブル等が110人（17.0%）で最も多く、次いでたばこが94人（14.5%）、電気ストーブが33人（5.1%）となっている。
- 受傷時の状態別でみると、ガステーブル等では家事従事中に負傷したものが44人（40.0%）で最も多く、次いで初期消火中が28人（25.5%）で、この2項目でガステーブル等で受傷した6割以上（65.5%）を占める。
- 男女別では、男性が396人（61.2%）、女性が251人（38.8%）と男性の受傷割合が高い。受傷時の状態をみると、男女ともに初期消火中の受傷割合が最も高い。

イ 受傷の理由

受傷の理由をみたものが図 5-2-1 です。

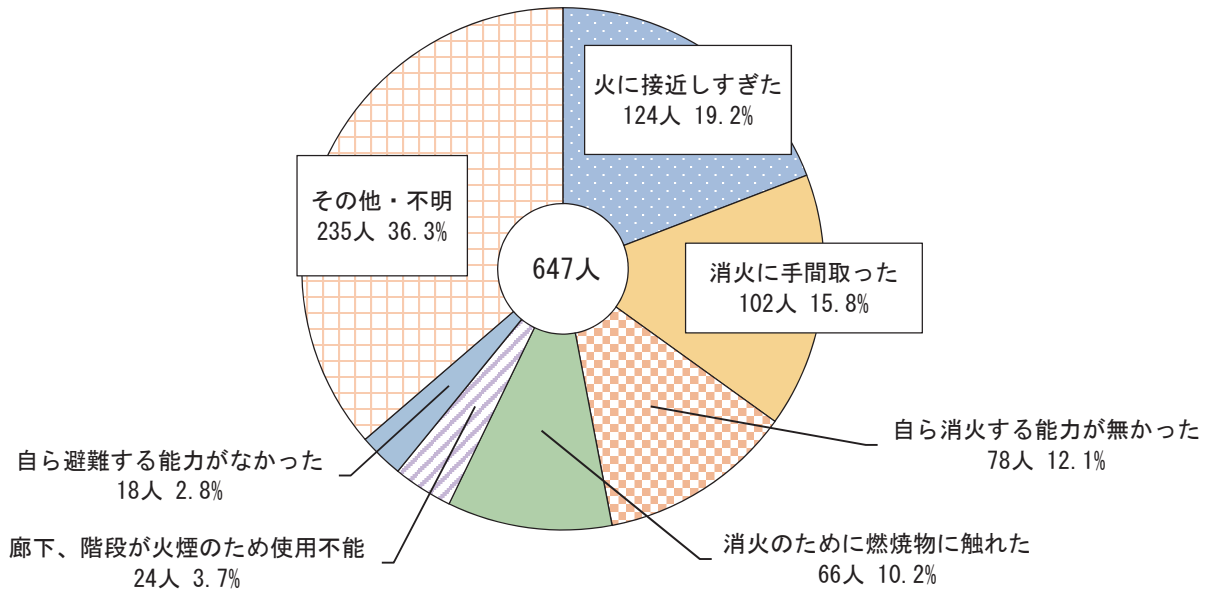


図 5-2-1 受傷の理由

注 「自ら消火する能力がなかった」とは、出火時に家事従事中（調理中など）で着衣着火などにより受傷したものです。

○ 受傷の理由をみると、「火に接近しすぎた」が 124 人（19.2%）で最も多く、次いで「消火に手間取った」が 102 人（15.8%）発生。

(3) 30日死者

30日死者とは、火災による負傷者のうちで、48時間を超えて30日以内に死亡した人のことをいい、年齢区分状況をみたものが表 5-2-5 です。

表 5-2-5 30日死者の年齢区分状況

受傷程度	合計	年齢区分				
		5歳以下	6 19歳	20 64歳	65 74歳	75歳以上
重篤	3	-	-	-	1	2
重症	1	-	-	-	-	1

○ 令和3年中の30日死者は4人で、前年よりも1人増加。30日死者4人の内訳は全て高齢者で、後期高齢者が3人、前期高齢者が1人発生。